

J **apanese text**

2018年 春/夏号 日本語編

Works

朱

画・文=篠田桃紅

p.003

あかあかと夜の明けるかのごとくにも
朱の磨られゆく我が硯かな

そう詠んだ歌人がかつていた

それは一種、ひっそりとした生命感のようなものを感じるよ
うな

口絵

光降る森へ

撮影=小林廉宜 文=編集部

p.006

地球に届いた太陽の光が、森の深部へとしみわたる

「地球は一つの森だ」——世界中の森を旅してきた写真家、小林廉宜氏はそう言う。宇宙に浮かぶ緑色の丸い森。人や動物、植物が46億年もの間、共生してきた小さくて豊かな森。

*

想像してみよう。あなたは今、宇宙から緑の地球を眺めている。絶え間なく、眩しい光の帯が降り注ぎ、その光が太陽の輝きだと、あなたは気づく。光に誘われるように、ゆっくりと地球という名の森へと近づき、やがてあなたもその中へ入っていく。枝を伸ばして光を迎え入れる巨木の連なり。濃い緑の枝葉と力強い樹皮の間をくぐり抜けながら、眩しい光が木漏れ日へと変化する頃、あなたは自分が木の根元へ

と到達したことを、そして大地に踏ん張った根の側に群生する小さな植物の存在を知る。木漏れ日を糧に、森の底辺に生きる命。——ふとあなたは空を見上げる。湿った森の大地、そこからそそり立つ巨木、空へ空へと伸びていく枝、太陽が与える恵みの光、丸く美しい緑の地球。そうだ、この星は森なのだ——。

*

世界遺産でもある青森県の白神山地には、ファザーツリーと呼ばれる推定樹齢400年のブナの巨木が生きている。幹には多くの苔が繁茂し、その根方ではクルマムグラの花が咲き、クジャクシダやスミレサイシンの葉がサワサワと揺れる。弱肉強食の自然界の中で、秩序を保ちながら共生していく命の数々。動物も人間も、その一部だったはずなのに——。森と向き合い続けている小林氏の言葉が甦る。「豊かな森のあるところに争いは生まれません。奇跡は森から起こるのです」。

青森県の南西部から秋田県の北西部に広がる白神山地。「人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布」（世界遺産登録理由）していることから、1993年にユネスコ世界遺産（自然遺産）に認定された。ファザーツリー（P.7）は白神山地の中の高倉森にある世界最大級のブナである。

小林廉宜（こばやし・やすのぶ）

「世界の森」「未来に残したい風景」をテーマに、希少な自然や文化を撮り続けている写真家。シルクロード横断、フェルメール全作品の撮影など幅広く活動している。今回の特集は、ブラジルやロシア、カナダ、ドイツなど全24カ国の森で撮影した写真&エッセイ集『森——PEACE OF FOREST』（2,300円/世界文化社刊）より、白神山地の部分を再編集した。

www.yasukoba1116.com